

「主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。」 第1テサロニケ 4:16~18

母の日で思い出すことの一つは星野富弘さんと献身的に支えてこられたお母さんの事です。富弘さんは体育教師でしたが、頸髄損傷の為手足の自由を失います。入院生活のうっぶんがたまって、ベッドに寝ている富弘さんにご飯を食べさせてあげた母親の顔に、口の中のご飯を吐きかけましたが、じっと黙っていた母親。星野さんが結婚するまで詩画作成の為に絵の具を用意したりして世話をしてくれました。「富弘さんが一番願っていることは天国でお母さんと会えること。」と導く牧師によって97歳のお母さんは病床洗礼を受けました。

コロナが早く終息できるように皆さまもどんなに祈っておられるでしょう。こんなに大規模な災害になるとは思っていませんでしたが、黙示録の患難時代に入るとこれどころではない災害になります。今の患難はリハーサルかもしれません。年末になるとクリスマスコンサート等しますが、その時リハーサルをすると、思いがけない気付きなどあり本番にとても助けられます。そのように、今こんなに大規模な惨事ですが、患難時代に入ったら世界の人口がハルマゲドンの最終戦争では1/2にまで激減するほど死と滅亡の時が来ます。その時に信仰を失わないようにと備えをさせられているのかもしれませんが。しかし、その患難を逃れる道があります。それは**携挙**です。それは第1コリント15:51,52にも出てきますが、終わりのラッパとともに御霊の体に変えられ(よみがえって)一気に引き上げられます。号令とみ使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに空中でキリストに迎えられ、いつまでも主と共にいると書かれてあります。第7のラッパのなる時ですから、患難時代3.5年真ん中でそれは起こります。(患難時代が終わる時地上再臨がもう一度あります。)携挙される人は ①聖霊に満ちている人(聖霊のバプテスマはイエスを信じる人には誰でも与えられます。) ②神様のわざを行う人、つまり信仰に立ち神をほめたたえる人 ③聞き従う人(賜物を用いる、)等 コロナ以後大きな問題と困難に巻き込まれる人と、そうでなく神の働き栄光を見る人に分かれます。神の言葉を信じ従う人、信仰を用いて生きた神様の働きにあずかり栄光をあらわせますように!

TLEA FRH Church [The Light of Eternal Agape]

FRH (天に登録されている長子たちの教会)

Church of the Firstborn who are Registered in Heaven



Siloam (シロアム: 遣わされた者 ヨハネ9:7)

2020年5月10日 No.1102

< II 歴代誌 20:15, 17 >

この戦いはあなたがたの戦いではなく、神の戦いであるから。

この戦いではあなたがたが戦うのではない。

しっかり立って動かずにいよ。

あなたがたとともにいる主の救いを見よ。

♪ God is working for my good , now , for my good ,

for my good , God is working for my good , Yes , You really are! ♪

<http://astone-blog.jp/tleafrh/>